



出向先会社で設備改善・パワーハラ撲滅など多くの改善を勝ち取った成果が報告されました

第31回定期地本委員会開催

2月22日、品川区大崎第一区民集会所で第31回定期地本委員会を開催しました。

■伊藤委員長

・春闘は賃上げ要求2万円を掲げて闘う。本部は団交を開始した。春闘総決起集会をJRひがし労と共に開催する。最大限の参加を。・診断書強要行政訴訟判決で会社の団交開催拒否は不当労働行為であるとあらためて認定された。本部は団体交渉の開催を勝ち取ったが、地方での開催を会社は頑なに拒否している。地本として地方での団体交渉開催を目指す。・各国の軍事紛争はすべて労働者市民の意思ではなく権力者の利害のためのもの。平和と人権を守るため、意志を同じくする市民・団体との連帯の輪を一層強く追求する。・衆院選で、自民党が316議席を獲得し、憲法改正反対を明確にしているのは共産党とれいわの5議席しかない。高市政権による戦争をする国づくりを許すわけにはいかない。全ての仲間と連帯し闘う。・相次ぐ効率化=要員削減と賃金抑制に反対、リニア中央新幹線建設即時中止を求めて市民・団体と連帯して闘う。・姥直樹さんが、サービック労組を脱退しJS労組合員であることを表明した。JRSE会社でJE労を結成し団交が行われた。新幹線地本も、職場や出向先で他労組組合員や社員の仲間との意見交換をもとに申し入れや悩みごとなど相談にのる取り組みを続けて信頼される関係をつくってきた。また、家族の組合加入も実現した。OBや家族の力もかりて、全ての闘いを組織強化・拡大に結実するために奮闘しよう



■斉藤本部副委員長

・海外各地で軍事紛争が続いている。反戦の声をあげていこう。・衆院選自民圧勝で憲法改悪・ファシズム国家が現実のものとなってきた。許さない勢力の結集をめざそう。・JR総連から決別し現役・関連会社から次々と加入が実現している。ひがし労や民間労組との連帯を進めている。これからも本体、協力会社、一般さらに家族の加入をめざす。・裁判勝利で団体交渉の開催が実現した。



■田中地本OB会長

・平和運動・労働運動は現役の時とは全く違う状況となっている。JR総連さえも変質した。運転中のイヤホンで懲戒免職に反対しない。元東海労委員長はJR総連によるJR東海労排除に際して現役を応援するのではなく現役に敵対している。・東海でも東でもOBは労組の分裂で振り回されている。分裂したものは敵だで終わらせず東海や東のOBに働きかけていく。



●質疑

・業績考課P1評価について出向先会社の所長に聞いた。「本社から評価を求められたが、そんなことはできないと蹴った。こういうのはもうやめてほしい」と言っていた。

・団交の結果職場にエアコンが設置され、出向先会社と雇い主の意見交換会が定期的に行われるようになった。

・出向先のパワハラを会社に訴えたが「(いやなら)あなたが会社辞めればうまくいく」「一人勤務のところに行かないか」と言ってきたので「JRに戻せ」と強く抗議した。その結果、(パワハラの相手から)謝罪が実現した。

・組合にお礼を言いたい。職場に色々問題があるが、組合組織があるから対応ができる。他労組の人は辞めてしまった人もいる。

・超勤や休日出勤、年休申し込みに難癖をつけられたりしている。仕事のしやすい職場に変えるためにがんばる。

・初めての仕事をやるのに教育がない、一部管理者のパワハラなどについてレポートに書いて出した。その後彼らの態度が変わった。

・セン労(OB)は何を持って何をしたいのか?OBの多くはよくわからないままセン労OB会に行っている。セン労だからだめというのではなく働きかけていこう

・戦争をする国に進みつつあることへの否定感が希薄になっている。戦争の肯定、その先の徴兵制が見えないで票をいれている。九条守れだけでは浸透しない。あらゆることを考えて訴えていく必要がある。だらしない組合が増えて労働運動は崩壊の道をたどっている。そういうことの結果が今回の選挙だ。

・敬松塾について教えてほしい。

●答弁・総括答弁

・敬松塾は元東労組委員長の柚木さんが松崎さんの教を継承しようと設立した。・徴兵制が現実化することを訴えていこう・セン労は経協をまともに開催していない。組合員、OBに話をしていこう。・出向や再就職した仲間も職場改善でがんばっている。・平成採組合員を一人にさせない。他労組の仲間に関わりを持って組織拡大した。自信を持って、本体・関連・地域や家族に働きかけていこう。・敬松塾ではOBの先輩も元気だ。勉強になった。



・敬松塾ではOBの先輩も元気だ。勉強になった。